



## 高校生のための心理学講座 in 九州大学

九州大学大学院人間環境学研究院 准教授  
光藤宏行 (みつどう ひろゆき)

福岡の箱崎には、多くの人が集まる楽しいイベントである放生会<sup>ほうじょうや</sup>という祭りが行われる1週間があります。その期間中の2015年9月12日、九州大学の箱崎キャンパス旧工学部本館で、高校生のための心理学講座が開かれました。参加者は64人で、高校生は約8割でした。国内外の第一線で活躍される若手の先生方に、ご講義をいただきました。概要は以下の通りです。

好き嫌いの認知心理学 (九州大学基幹教育院・山田祐樹准教授)

認知心理学には、日常体験から明らかな、常識的な事柄に対し科学的な根拠を与えるという側面と、誰も知らない、常識ではないことを明らかにするという側面があります。前者の例としては例えば、どういう人を好きになるかについて、外見的魅力、その人との近さ、その人との程度なじみがあるか、どの程度自分と似ているかという要因が考えられます。実験により、このような常識はほぼ正しいことが分かっています。他方、私たちの主観的な感情や認知が、上下左右という物理的位置と関係するとは、常識的にはそうみなされていません。しかし、上方向への動作はポジティブな記憶と結びついており、さらに私たちは利き手にある側と好ましい対象を結びつける傾向があることが、さまざまな実験から明らかにされています。このような空間と認知の結びつきは、法廷での裁判場面の判決にも影響する可能性があることを議論しました。

絵にあらわれる人のところ (九州大学大学院人間環境学研究院・佐々木玲仁准教授)

心理学には、人類や生物の共通性を探るという側面と、多様性を探るという側面があります。臨床心理学は人の多様性に着目する分野であり、その知見は学校、病院、職場などでの心理相談(カウンセリング)として、身近な現場で広く利用されています。心理相談の目的は、困っている人に正解を与えるのではなく、困りごとを抱えた人が自分で考えて解決できるようにすることです。その方法の一つに描画法があります。これは言葉でのコミュニケーションが苦手な相談者や、または逆に言葉が得意すぎて、かえって大事なことがなかなか話せない相談者などに用いられると有効な方法です。描画法では、決められた手順で絵を描きます。その過程でどのような描き方をしたのか、何をためらったり、どういう表情で描いたりしたのかということが、心理相談を進めていくための重要な手がかりになります。臨床心理学はこのように、現場での必要性が高いことに加えて、研究としての発展可能性が幅広い分野であると言えます。

社会心理学 (福岡大学人文学部・池田浩准教授)

社会心理学は社会学とも関係のある分野であり、対人場面を中心として、現代的で日常生活に深く関わるテーマを扱います。社会学では、都市化や産業の進歩などのマクロな視点で分析を行う一方、社会心理学は問題が起こったそのときの状況や環境などに注目します。これは臨床心理学などの、その人個人の性格などの特性と結びつけて考える方法とも異なるものです。社会心理学も認知心理学と同様に、実験を行います。社会心理学で検討する問題の一つは、人は一人でいるときと集団でいるとき、どのように行動や振る舞いが異なるのかということ



### Profile—光藤宏行

1999年、千葉大学工学部工業意匠学科卒業。2004年、九州大学大学院人間環境学府博士後期課程修了。日本学術振興会特別研究員、九州大学大学院人間環境学研究院講師を経て2012年より現職。専門は知覚心理学。著書は『学際研究：プロセスと理論』（共訳、九州大学出版会）、『コミュニケーションと共同体（九州大学文学部人文学入門3）』（編著、九州大学出版会）など。

す。人が集まって集団ができると、規範が自然に作られます。私たちは知らず知らずのうちに人に合わせてしまうことは、集団の種類に関わらず広く見られる傾向です。このような知見を踏まえることで、日常場面での社会生活を考え直したり、改善するきっかけが得られるかもしれません。

発達心理学（九州大学大学院人間環境学研究院・實藤和佳子准教授）

発達心理学では、人は時を経てどのように変化していくかということをもさまざまな研究方法を通じて検討します。この数十年間で言葉を必要としない研究法が急速に開発され、特に乳幼児に関する知識は大きく変化してきました。例えば、大人は、自分を含めて他の人にも心があり、それぞれ意図を持って行動しているということを知っています。乳幼児はこのような知識をいつ得るのでしょうか。乳幼児は言葉を十分に話せないで、視線や行動に着目して研究を行う必要があります。行動再演法を用いた研究では、大人が途中で失敗した行動を見せるとき、乳幼児は達成されなかった意図を汲み取った行動を示すかを調べるといった巧妙な実験手続きが用いられました。その結果、1歳児は他者の意図を理解していないものの1歳3ヶ月児は理解していることを示す結果が得られました。さらに、まだ運動能力があまり発達していない生後半年以内の乳児も、視線に着目すると、他者の意図を理解し始めているようです。このような他者の行動の背景にある意図を理解する能力の発達には、自分の身体を動かす経験と密接にリンクしていることを示す結果が得られています。

犯罪心理学（福岡大学人文学部・大上渉准教授）

犯罪心理学は、非常に幅広い学際的な領域で

す。犯罪・非行の心理的・社会的要因を探る犯罪原因論、裁判や目撃証言を扱う裁判心理学、犯罪が起こりにくい街作りに貢献する防犯心理学、精神疾患と犯罪の関係や犯人の責任能力を調べる精神鑑定、そして再犯罪を防止する矯正心理学などから構成されています。その中でも、犯罪捜査に寄与する捜査心理学という分野が近年注目されています。その研究対象には、例えばテレビドラマなどにも登場するポリグラフ検査があります。この検査では、犯人しか知り得ない情報を含む質問を行い、心拍数や皮膚電気活動などの変化から、被検者が生々しい犯行状況を記憶しているかを調べます。さらに犯罪者プロファイリングでは、同じような行動をとる人は、同じような個人属性を持つという仮定のもとで大量のデータを集積して多変量解析を行い、犯行パターンに対応する個人属性の絞り込みを行います。このように捜査心理学の研究知見は、犯罪捜査において事件解決に貢献する強力なツールとして利用されています。

### まとめ

先生方の講義は互いに関連する部分を持っていました。山田先生と大上先生の両方の講義で目撃証言が取り上げられましたが、その文脈は大きく異なるものでした。池田先生と大上先生の講義では有名な事件がいくつも取り上げられ、受講生が講義の内容を具体的にイメージする手助けになりました。佐々木先生と實藤先生の講義は、人の言葉に現れない部分を取り上げて分析するという点で、共通性を感じさせるものでした。熱のこもったご講義をいただいた先生方だけではなく、心理学を学びたいという学習意欲をもつ高校生が多く参加してくれたことに感謝します。